

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	データベース実践（Practical Database）		
ナンバリングコード	P30803	大分類 / 難易度 科目分野	情報メディア学科 専門科目 / 応用レベル データベース
単位数	2	配当学年 / 開講期	3 年 / 前期
必修・選択区分	選択 ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	P080301	クラス名	-
担当教員名	濱田 大助		
履修上の注意、履修条件	当該科目の開講年度までに履修すべき科目を履修していることが望ましい。日本語を使用し情報システムに関する内容の講義であるため、国内事例を理解できるようにしておくこと。講義中の電子辞書（スマートフォンは不可）の使用は許可する。基本的なPCの操作（ソフトウェア起動終了、日本語入力、ファイル処理等）とWebによる情報収集、メールソフトの操作ができること。コンピュータを使用するIDとパスワードを確認しておく。他人の学習意欲が減少すると感じられる行為は履修生およびSAの報告で評価（減点）対象とする。		
教科書	プリント、PHP4徹底攻略改訂版(PDFファイル ソフトバンクパブリッシング提供)		
参考文献及び指定図書	データベースシステム 北川博之著 昭晃堂 、オープンソースデータベース標準教科書 LPI-Japan 、リレーショナルデータベース入門 増永良文著 サイエンス社		
関連科目	IT基礎、データベース基礎 、データベース応用		

○基本情報		
授業の目的	情報化社会の急速な発展の中、今日の情報産業の生産物はさまざまな人間の社会活動や情報技術との相互作用によってもたらされるシステム「情報システム」ととらえることができます。データベース基礎/応用で学習をした、リレーショナル型データベースとその言語であるSQL(エスキューエル)を活用するため、実際にデータベースを構築、利用し、情報検索・情報発信の実習を通して理解を深めます。実践的な理解を得るため学内の閉じた環境を脱し、一般的な開発環境でより実践的な技術を身につけます。	
授業の概要	データベースの実装に関する学習を経て、各種アプリケーションとの連携方法について理解します。ODBCをはじめとするミドルウェアの働きについて学び、近年増加するWEBサイト内におけるデータベースの挙動について学習します。WEBサーバ種類と歴史、各種スクリプト言語の特徴と利用場面を理解します。データウェアハウスやデータマイニング、集中型データベースと分散型データベースなど企業等での利用場面について理解します。 後半はLAMPを基本とした環境を、仮想または個別に構築したものをを用いて課題製作を行います。データの収集からデータベース化、WEBにおける文字コードの扱いなどに注意して取り組みます。評価は相互評価を行い、PDCAサイクルに沿った演習を評価対象とします。	
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「演習等形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」
	(3) アクティブ・ラーニング	「プレゼンテーション」
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ : 地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
実務経験のある教員による授業科目	実践的な内容とするために、クラウドやホスティングサービスを用いる課題を設定する。学内で演習する演習する際のサーバや、手元のPC内で稼働するソフトは、マルチプラットフォームを意識しベンダやソフトウェアメーカに依存しないようOSSを主体とする。具体的にはリモートアクセスのデファクトスタンダードであるSecure Shellを用いSQLコマンドおよびシェル(bash)操作を交えた演習を行う。Apacheをはじめとするhttpdの動向と、LL言語であるPHPとRDBのSQLiteを用いて、簡易なDBアプリケーションの作成を行う。課題製作とし、自らホスティング環境を構築または選択し使用環境に合わせた構築を目指す。	

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	自己課題に対しての課題設定が行える 身の回りの情報システムの構造について考察できる			15点
【知識・理解】	SQLを用いて意図するデータを処理することができる Linuxサーバを構築・操作できる(運用をのぞく) WEB-DBシステムを構築し公開。他人の作品を評価できる	30点	10点	
【技能・表現・コミュニケーション】	他人の課題について均等に評価できる 評価を点数以外のコメントにより行う事ができる		20点	10点
【思考・判断・創造】	他人の課題をもとに自己の課題を見直し、改善・改良ができる 自己の課題が身の回りの情報システムのどの部分に位置するか、また精度などを判断できる		15点	

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
■達成水準の目安は以下の通りです。(講義への取り組み態度として15回の講義を評価します) [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 / [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 / [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 / [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。 知識・理解: RDBMSとWEBサーバの連携について理解する / 技能: 求められた課題を期限内に提出する / 思考・判断・表現: 他者の課題と自己の課題を比較し適切な評価を行う / 関心・意欲・態度: 最終課題のテーマを合理性のある題材を検討し、自らとの関わりを表現できる ■課題のフィードバックは、直後から次回以降に講義・演習時に講評・解説を行う。期限内のものを評価対象とする

○その他
■課題・予習・復習について 課題は電子メールにて収集する。予習・復習は、指定した資料の下読み・理解を要します。課題は講義中および復習時などに提出するものとする。提出内容に変更や追記がある場合は再提出としてメールで送信する事ができる。提出および再提出(再送信)の期限は次回講義の前日正午までとする。欠席した講義の課題については提出できない。ただし欠席届けにより当該欠席を補填される事がある場合はその限りではない。 ■出席・欠席等について 出席・欠席の管理は情報システムを用いて行う。出席は始業ベルから15分以内までの入力に対して認定します。15分以降は遅刻30分以降の登録または未入力は欠席とします。途中退出は体調不良・就職活動の緊急連絡などに限り、特段のことわり無く許可します。途中退出が30分以上継続する場合は、早退とします。公共交通機関、大学バスの運行遅延に伴う遅刻は遅延証明により救済措置の対象とする。1週以上の報告の遅れや無報告については、救済措置の対象としない。 ■座席・教科書・水分補給について 座席は自由あるいは指定とする。指定の場合は申し出により座席を変更可とするので、早急に相談すること。空調は教室の構造上、場所により効力が異なるため、自己の体調に合わせて最適な席に着席すること。教科書は、オンラインまたはプリントを用いる。プリント配布の場合は、解説内容をオンラインで入手可能としている。PC教室であるため飲食は禁止とする。ただし、健康障害や重大な事故の大きなリスク要因を除去するための厚生労働省が推進する「健康のため水を飲もう」に沿う水分摂取は可とする。 ■テストについて 小テストおよび中間・期末テストは、マークシートまたは情報システムにて収集・採点する。単位認定に係る、総合評価のに不足する点数を補填するための再試験またはレポートを課する事がある。再試験(レポート含む)は所定の手続きにより実施する。レポートは都度指定する様式・分量・テーマに沿って取り組む事とする。(レポート体裁となっていないものは評価しない) ■ディプロマポリシーとの関連 情報処理、情報の創造や伝達、情報処理 技術を活用し、企業活動の各分野に従事するに足る専門知識をえるための演習を交える。具体的には、RDBMSとしてMS社のアクセスをはじめ、SQLite、PostgreSQLなど各企業等で使用するソフトウェアを用いて演習することにより、専門知識を涵養する。 ■実務経験 (1998年～2000年) 鹿児島ケーブルテレビ放送株式会社に勤務。社内機器および貸与機器の運用管理、制作業務および送出業務に従事。第一種電気通信事業者の認可申請業務にあたる(当時の郵政省)。インターネットプロバイダ事業に用いる機器および、放送送出機器の運営を主業務とする。SNMPで管理されるMACをデータベースを構築し管理した。併せて自社および他社のWEBサイトの構築に従事。 (2000年 -2006年) 日本文理大学NBUメディアセンターに勤務。学内LAN、イントラネットサーバの運用管理・開発、および工学部情報メディア学科技術員として運用管理に従事。多種業務をデータベースシステムに移管し業務の効率化を図った。 ■データサイエンス関連 データサイエンスにおけるデータの適切な蓄積および分析には、データベースの知識無くして成り立ちません。

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画		科 目 名 担当教員	データベース実践（Practical Database） 濱田 大助	授業コード	P080301	
学修内容						
1. ガイダンスと理解度調査						
科目のガイダンスを行います。						
予習	オープンソースデータベース標準教科書 -PostgreSQL- v.2.0.0(https://www.lpi.or.jp/ にて入手)				1.2.3各章	約2時間
復習	配布プリントと記述したメモ内容を見直す。					約2時間
2. SQLの復習						
SQL復習(定義、選択など)、DB運用と管理						
予習	オープンソースデータベース標準教科書 -PostgreSQL- v.2.0.0(https://www.lpi.or.jp/ にて入手)				1.2.3各章	約2時間
復習	配布プリントと記述したメモ内容をもとに、ソフトまたは別途通知する復習用サイト					約2時間
3. SQL操作の振り返り						
SQL復習(集合演算、仮想表など)、集中型DBと分散型DBの理解						
予習	オープンソースデータベース標準教科書 -PostgreSQL- v.2.0.0(https://www.lpi.or.jp/ にて入手)				1.2.3各章	約2時間
復習	配布プリントと記述したメモ内容をもとに、ソフトまたは別途通知する復習用サイト					約2時間
4. データ加工の実践と、WEB連携						
SQL復習(データの取り込み、データ加工など)、WEBの誕生と、動的WEBの仕組み						
予習	オープンソースデータベース標準教科書 -PostgreSQL- v.2.0.0(https://www.lpi.or.jp/ にて入手)				1.2.3各章	約2時間
復習	配布プリントと記述したメモ内容をもとに、ソフトまたは別途通知する復習用サイト					約2時間
5. UNIXサーバの知識						
WEBシステムとDBの連携を行う上で必要となるUNIXサーバの知識と技術について						
予習	オープンソースデータベース標準教科書 -PostgreSQL- v.2.0.0(https://www.lpi.or.jp/ にて入手)				10章の読	約2時間
復習	配布プリントと記述したメモ内容をもとに、ソフトまたは別途通知する復習用サイト					約2時間
6. LAMPとLL言語について						
LINUXとDB(環境整備)						
予習	オープンソースデータベース標準教科書 -PostgreSQL- v.2.0.0(https://www.lpi.or.jp/ にて入手)				11章の読	約2時間
復習	配布プリントと記述したメモ内容を見直す。					約2時間
7. システム開発と運用						
システム開発と運用における課題について学習します。						
予習	2009年 総務省第2回クラウドコンピューティング時代のデータセンター活用化策に関する検討会 クラウドコ					約2時間
復習	配布プリントと記述したメモ内容を見直す。					約2時間
8. 小テスト						
LINUXとDB(LINUX入門) 小テスト(中間)						
予習	SQLの総まとめおよびDBとWEBとの連携に関連した内容について					約2時間
復習	実施したテスト内容を確認し、最終課題に備える					約2時間

○授業計画		科 目 名	データベース実践（Practical Database）	授業コード	P080301
		担当教員	濱田 大助		
学修内容					
9. 演習 サーバ					
PHPによるDB操作 外部サーバの利用					
予習	オープンソースデータベース標準教科書 -PostgreSQL- v.2.0.0(https://www.lpi.or.jp/ にて入手) 10章の読				約2時間
復習	ホスティング環境の調査				約2時間
10. 演習 PHP					
PHP言語の紹介と演習					
予習	オープンソースデータベース標準教科書 -PostgreSQL- v.2.0.0(https://www.lpi.or.jp/ にて入手) 10章の読				約2時間
復習	ホスティング環境の確保と仕様の確認				約2時間
11. 演習 PHP DB連携					
課題提示およびテーマ決定、情報収集					
予習	オープンソースデータベース標準教科書 -PostgreSQL- v.2.0.0(https://www.lpi.or.jp/ にて入手) 10章の読				約2時間
復習	テーマ決定および課題で使用するデータの収集				約2時間
12. 課題への取り組み					
復習およびイントラ・インターネット上でのWEB-DBシステム構築課題					
予習	2012年 独立行政法人情報処理推進機構 IPAISC セキュア・プログラミング講座 データベースとアクセス権				約2時間
復習	課題の継続実施				約2時間
13. 課題への取り組み					
復習およびイントラ・インターネット上でのWEB-DBシステム構築課題					
予習	2012年 独立行政法人情報処理推進機構 IPAISC セキュア・プログラミング講座 スクリプトに埋め込まれた				約2時間
復習	課題の継続実施				約2時間
14. 課題への取り組み					
復習およびイントラ・インターネット上でのWEB-DBシステム構築課題、取り組みの「見える化シート」の作成					
予習	2010年 独立行政法人情報処理推進機構 セキュリティセンター 安全なSQLの呼び出し方				約2時間
復習	課題の継続実施				約2時間
15. 課題への取り組み(相互評価)					
課題のプレゼンテーションおよび相互評価					
予習	2011年 ITプロジェクト見える化と定量的品質管理 https://www.ipa.go.jp/files/000004862.pdf p.26 3つの				約2時間
復習	取組課題におけるPDCAのCおよびAを実施し、技術向上のためのポイントを押さえる				約2時間
16. 補講					
未完成(および不合格)であった課題の再取組みと相互評価(再)					
予習	2011年 ITプロジェクト見える化と定量的品質管理 https://www.ipa.go.jp/files/000004862.pdf p.26 3つの				約2時間
復習	取組課題におけるPDCAのCおよびAを実施し、技術向上のためのポイントを押さえる				約2時間